vinetur

# 英国の酒税収入、10月までに71億ポンド

英国歳入関税庁は、前年同期比4,000万ポンド増の酒税収入を暫定発表。税収はおおむね横ばいで推移している。

2026年11月20日（金）



英国歳入関税庁（HMRC）が月次税収報告で発表したところによると、英国の酒税収入は2026年4月から10月までに71億ポンドに達し、前年同期を4,000万ポンド上回った。

この数値は暫定値であり、追加情報の処理に伴い、後日公表される資料で修正される可能性がある。HMRCは、国内の税収と国民保険料の定期的な報告の一環として、この報告書を公表している。

最新の酒税収入は、2026～27年度に入ってからの税収の伸びにほとんど変化がないことを示している。税収が70億ポンドを超える中での4,000万ポンドの増加は、現金ベースの総額はわずかに増えたものの、2025年の同じ期間と比べ、政府の酒税収入がおおむね横ばいだったことを示唆する。

HMRCは、月次データについて、政府が実際に受け取った税収の記録であり、予測値ではないと説明している。同庁によると、このデータは短期的な財政状況の把握と、より長期的な政策分析に活用される。そのため、酒税収入は、年度の進行に伴う税収基盤のこの分野の動向を追うための公式な基準となる。

酒類業界にとって、この数値はビールやワインからスピリッツ、RTD（そのまま飲める酒類）まで、アルコールの販売に関連する税収の流れを把握するうえで有用な指標となる。一方、税収データだけでは、アルコールの消費量が増えたか減ったかは分からない。税収は税率の変更や納付時期、商品構成の変化、その他の市場要因にも左右される。

公表データから需要動向を読み取ろうとする生産者、輸入業者、卸売業者、小売業者にとって、この違いは重要だ。税収の増加は販売の伸びを反映する場合もあるが、税率の引き上げや、事業者が商品を販売可能な状態にする時期の変化による場合もある。同様に、税収が横ばい、あるいは低調だからといって、市場全体で販売量が減少したとは限らない。

酒税の数値は、主要な税や関税による政府収入を追跡する月次報告の一部として公表されている。HMRCはこの報告書で、所得税、付加価値税、法人税、燃料税、たばこ税など幅広い税目と、国民保険料の収入を報告している。

データは毎月公表されるため、経済学者や予算分析担当者、業界団体は、年間を通じた政府収入の動向を示す兆候として注視している。酒類については、4月から10月までの累計が公的財政への業界の寄与を早期に示す一方、今後の数カ月で後日の修正や取引環境の変化によって状況が変わる可能性も残されている。